

自然を見つめる

2025年 9月号

VOL. 133

西東京 自然を見つめる会



ワルナスビ・・・ナス科

北米原産の多年草。茎や葉に鋭いトゲがあり、少し触れただけでも、飛び上がるほど痛く、一番嫌われている野草です。駆除しても地中に少しでも根の痕跡が残ると、そこから再発芽する程、生命力が強く、完全な駆除が難しい野草です。

花は白色か淡い紫色で、見かけは上品で親しみを感じますが、悪草の筆頭です。

文と撮影・山本昭六 撮影地・・・新所沢街道 7月

今年の夏は

今年は梅雨の感覚が余りなく、6月中旬以降はほぼ32℃以上の猛暑が連日続き、肌感覚では昨年以上の暑さが続いています。よって、近くへの買い物や、体力保持を考慮したバスを利用の散歩などを除いて、ほぼ巣ごもり状態が続いている状況です。

今日8月18日(月)は朝から暑く、昼頃、東京都心では37℃というまるで浴室にいるような気分でしたが、雷が伴った夕立が降り、やっと収まりましたね。今後も暑さは続く予報です。

その前日17日(日)、西東京市図書館主催による「ロード・オブ・ザ・ニストークョー」「道」からつむぐ江戸物語という、子供のための地域を知る講演会が谷戸公民館で開催され、大人も参加可能ということで出席しました。主に青梅街道・田無宿と村びとの営みを行田健晃先生により、パワーポイントビューで分かり易く解説して頂きました。老若共の参加で幕末(約160年)以前の地元の様子がよく分かり、さわやかな気分となりました。

今年は昭和100年、戦後80年という節目の年であり、新聞やテレビ等のマスコミで特集が組まれています。戦後生まれが9割という現状から、継承が課題となっています。

さて、昭和20年8月15日の東京の天気をAIに尋ねたところ、晴れで、32.3℃とのこと。やはり暑かったのですね。
(8月18日(月) 大矢 隆治 記)

目次

区分	内容	執筆者	ページ
表紙	ワルナスビ(ナス科)	山本 昭六	
巻頭言	今年の夏は・目次	大矢 隆治	1
自然観察会	みどりの散策路めぐり「上保谷コース」	田口 はるみ	2
同上	庭は生きている —希少生物の楽園ビオトープのあるオーズガーデン—	早乙女 橙美	3
同上	東大農場：観蓮会に参加して	大橋 信子	4
活動予報	西東京市の木 50選 これから	大矢 隆治	5
活動協力 活動報告	「私の好きな樹」に 出会う 樹木観察会(芝久保公民館主催)に協力 ・活動報告	大矢 隆治	6
会員寄稿	「富士町(まち)さくら公園といろいろな生物たち」	渡部 國夫	7
同上	読谷村から	中村 賢司	8
同上	北海道の原生花園の花	田巻 威彦	9
植物雑感	キツネノカミソリ	緒方 信子 菅北 正子	10
裏表紙	向台植物公園・季節の花シリーズ—26	緒方 信子	

みどりの散策路めぐり「上保谷コース」

田口 はるみ

今年度最初のみどりの散策路めぐりは、5月28日(水)西武柳沢駅北口広場に9時30分集合、市民25名、市職員4名、会員8名で実施された。厳しい暑さの日であった。

集合後、すぐに保谷第三公園へ移動する。公園では業者によるフジの剪定作業中。トラックも公園内に有ったが、少し移動していただいだけ、無事開催の挨拶や準備体操などを行なえた。この公園は、隣接する保育園の運動会等の行事では、設置されている仕切りを外して、公園を園庭と合わせて利用しているようだ。又町会のお祭りも行われ、有効に活用されていると聞く。



しばらく商店街を東進し、住宅街に入り、保谷第一公園脇を通り新青梅街道に出る。36メートル道路との交差点を北進すると、歩道に一本のヤブツバキが見えてくる。これは農家の庭にあったそうだが大きな道路工事にも拘わらず元の位置に残された。残された木にはどんなドラマがあったのだろうか?今も沢山の花を咲かせるようだ。

さらに北進し障害者福祉センターに到着。50選の木のムクロジの説明とトイレ休憩、水分補給をする。

次に関道を西に進み、この地の名を冠して「榎の庚申様」と慕われた青面金剛庚申像に会う。この像は米軍の空襲により、6本あった腕の3本を失ったと言う戦争の記憶が残っている。

ローズガーデンへ向かう。途中数本の桜の大木が木陰を作っている第三えのき児童遊園で休憩。木陰の有難さを感じる。ローズガーデンに到着。何種類もの美しいバラが迎えてくれ感激の声が聞かれた。一度剪定された枝が又枝を伸ばし、花を咲かせているのも見られ、逞しい生命力を見せてもらった。



次に西浦地藏尊に向かう。この地藏の建立には、女性の辛く悲しい物語がある。この話に同情した参加者の声を聞きながら、道を挟んだ目の前の仲良し公園で休憩と健康課の話聞く。

散策路も終盤。保谷新道、新青梅街道を横断し富士街道をめざす。柳沢駅の西側に西武新宿線のガードがある。この下を太平洋戦争中、航空機のエンジンや部品等を製造していた中島飛行機の専用鉄道が走っていた。ガードだけが残っている。

最後に六角地藏石幢を目指して、富士街道を深大寺道との交差点まで進むと、六角形の石柱の上部に六体の地藏菩薩が彫られている石幢がある。女性と幼子を弔うために建立されたと記されており、道標も兼ねていたようだ。

心配された暑さの中、柳沢駅北口に12時前無事到着し解散となる。昔の人々の生活や心に触れたり、戦争の世を身近に感じさせられたりと、興味深いコースで楽しませてもらった。また一方では、狭い昔ながらの生活道路を大勢で歩く難しさや、道路脇にある文化財の説明、季節柄の熱中症対策など、今後の課題も感じた散策であった。

庭は生きている

——希少生物の楽園ビオトープのあるオーズガーデン——

早乙女 橙実

西東京市の住宅地にあるオーズガーデンをご存じだろうか。2023年に環境省から「民間における生物多様性の保全区域」として「自然共生サイト」に認定され、翌24年OECM（人と自然の共生地域）の国際データベースにも登録された個人庭である。オーズガーデンには絶滅危惧種の「アカガエル」や「アズマヒキガエル」「ヒガシニホンオオトカゲ」などの希少生き物が暮らす。野生生物のオアシス、オーズガーデンはどのようにして絶滅の危機にある動・植物の生息・繁殖を可能にしたのだろうか。同じ市に住む者として非常に興味深い。

環境の変動がもたらす動・植物の珍しい種の絶滅のことを思うと心がザワザワするだけで何もできない私は私の庭造りのヒントがあるかもしれないと、ガーデンの訪問を希望した。昔読んだ短編小説「赤蛙」を思い出し、アカガエル君にも会ってみたいかった。

6月18日。ガーデン訪問希望者6名、向台公園の東屋に10時集合。6月とは思えない猛暑の中、高揚感を抱えオーズガーデンを目指して歩く。すると唐突に木製の木戸が現れた。木戸のウエルカムフラワーは意外にもトロピカルな造花だった。

造花に驚きつつ一步入ると、そこは私の想像した自然なガーデンではなく整然と管理され、計算された空間だった。敷地に敷き詰められた真っ白な小石が夏の日差しを反射してまぶしい。中ほどにレイズドベット（上げ植床）がありミニトマトが沢山の実をつけていた。

散策の前に園芸小屋に案内され、オーズガーデンについてビデオを観ながら主の話を聞く。子どもの頃遊んだトカゲや蛙の姿が消えていくことに寂しさを覚えた主は、弟と失敗を重ねながらひょうたん池を作った。すると、小さな生き物が棲みつき昔の風景が戻ってきた。そこで庭木を伐採して本格的に多様な野生の小動物が生きていける環境の庭を造った。失敗もしたが庭造りは「気軽に楽しく」が大切と話す。窓辺のドライフラワーを揺らして入る風が心地よい。小屋からガーデンに移動。蝶の集まるブツレアのエリア。生き物の隠れ家になるように園芸材を置く。日陰をつくる大きい葉の植物植栽。水生植物に囲まれ、水を湛えたひょうたん池は夏空を映し吸い込まれるようであった。オタマジャクシが泳いでいる。残念ながらアカガエル君には会えなかったが、沢山の野生の生き物たちで夜のオーズガーデンは賑やかかもしれない。



私の庭にも腹が水色のトカゲやカナヘビ、ミミズがいる。雑多な草木で足の踏み場もない。荒れ庭だと家族に不評であるがこれでよい。行き届いたオーズガーデンは参考にはならなかったが「庭造りは気軽に楽しく」の言葉を心に留め、私の庭の多様性はこれでよし。としよう。

東大農場：観蓮会に参加して

大橋 信子

8月25日（金）、26日（土）の二日間、東大農場ハス見本園が一般公開されました。

26日（土）に参加しました。8時過ぎに行くと、もう自転車置場がいっぱい。ハス見本園は大勢の人であふれています。

長方形の大型の水槽が8つ並び、112の蓮が植えられています。大賀ハス、緑地美人の各2株を除く、108の異なった品種です。

まず、入口すぐのところに、大賀ハスを一輪見つけました。

1951年に大賀博士が、検見川で発掘した、2000年以上地中にあったとされる種子を発芽させた品種です。花色はピンクで他のハスより小ぶりの花です。なお、緑地美人（黄色をおびた紅色）と月のほほえみ（単黄色）は東大農場で作出した品種です。

奥に向かって進むと、全体に丈が高く、葉も大きく、花数が少ないように感じました。6月の高温の影響か、例年より開花が早かったそうです。

大勢の人で、1つ1つ銘名と照らし合わせてみる事が出来なくて残念でした。又、交配のため、袋で覆われた種がいくつかありました。新品种はどんな花になるのでしょうか？楽しみに待ちましょう。

大賀ハス



撮影 山本 昭六

西東京市の木 50選 これから

大矢 隆治

50選の木は **西東京市の木 50選 その後**（会報 2024年12月号 VOL.130 より部分抜粋）で、平成23年（2011年）に選定され、早13年。その間、各種イベントでパンフレットを配布・広報したり、見学ツアーやみどりの散策路めぐりで現地を案内しています。

50選の木は概して老齢ということもあり、この13年間で8本の木が、枯損し伐採されました。下表にその内訳を紹介します。これからも50選の木を**緑のしるべ**として見つめていきたいと思えます。と記載している。〈枯損・伐採された木〉

NO	場所・木の名前	備考
6	東禅寺のツバキ	
8	碧山森緑地保全地域のミズキ	跡にミズキ幼木生育
37	西原自然公園のヤマザクラ	
38	西原第一児童遊園のアカマツ	
42	田無駅北口広場のウコンザクラ	跡に陽光桜植栽
44	田無小のカシワ	
45	田無小のピンオーク	
47	田無いずみ幼稚園のシラカシ	



遡ると、50選の木は一般市民から応募のあった180本から50本を有識者の方に選定して頂いたのですが、50選に漏れた木の中でも比較的评价が高かったのが下表の木たちです。

50選に準ずる木として、市民に紹介・案内する機会があればいいなと思っています。まずは、現地での生育状況を確認・把握するところから始めたいと思います。

番号	木の名前	番号	木の名前
1	阿波州神社のヒノキ	12	東大演習林のメタセコイア（事務所前）
2	さくら公園のケヤキ	13	西原自然公園隣広場のメタセコイア
3	さくら公園近くのトネリコ	14	如意輪寺のサクラ
4	芝久保第一公園のケヤキ	15	如意輪寺のトウカエデ
5	住吉小のヒマラヤスギ	16	ひばりが丘北町わんぱく公園のメタセコイア
6	総持寺のシダレザクラ	17	福泉寺の御会式ザクラ
7	総持寺のヒバ	18	南町第2児童遊園のマテバシイ
8	総持寺のヤマボウシ	19	武蔵野大学のダイオウショウ
9	田無図書館のメタセコイア	20	武蔵野大学のタイサンボク
10	たんぽぽ広場のウバメガシ	21	柳沢小のクロマツ
11	東大演習林のヒメシャラ	22	住吉会館の裏のムクノキ

「私の好きな樹」に出会う 樹木観察会（芝久保公民館主催）に協力

大矢 隆治

東京大学田無演習林を散策しながら、“植物のつくりやはたらきを学びませんか” という標記の樹木観察会が5月27日（火）開催され、当会も協力・参加する。

- 1, 10時、セミナールームに市民15名、当会4名、公民館2名が出席し、公民館より開催挨拶がある。
- 2, 次いで、講師の前原 忠 氏（東京大学演習林助教、田無演習林スタッフ）よりパワーポイントビュー「都市の中の森林について」により、自己紹介と研究概要、全国の東大演習林の場所と役割について お話がある。
- 3, 田無演習林は1929年（昭和4年）設立、現在約8ha 都市の中の森林で、アカマツ林やコナラ林、常緑広葉樹中心の天然林、タヌキ、オオタカなどが生育する。
- 4, 暖かさの指標から、東京都の平地において森林を放置していると最終的には照葉樹林（潜在自然植生）となる。
- 5, 田無演習林の周辺の昔と今、市内の山林面積の推移、演習林の樹木管理の実際、都市の中の森林の公益的機能と保健休養機能（癒し）等 紙面の都合で項目のみ。
- 6, 次いで、当会から西東京市の木 50選についてパンフで紹介し、林内で3本選定されていることを説明する。
- 7, その後、外に出て、講師の案内で50選の木を含めて林内を案内して頂くも、時間の関係で30分程観察し、お昼頃終了・解散する。有意義な樹木観察会でした。

○活動日誌 2025年6月4日～2025年8月13日

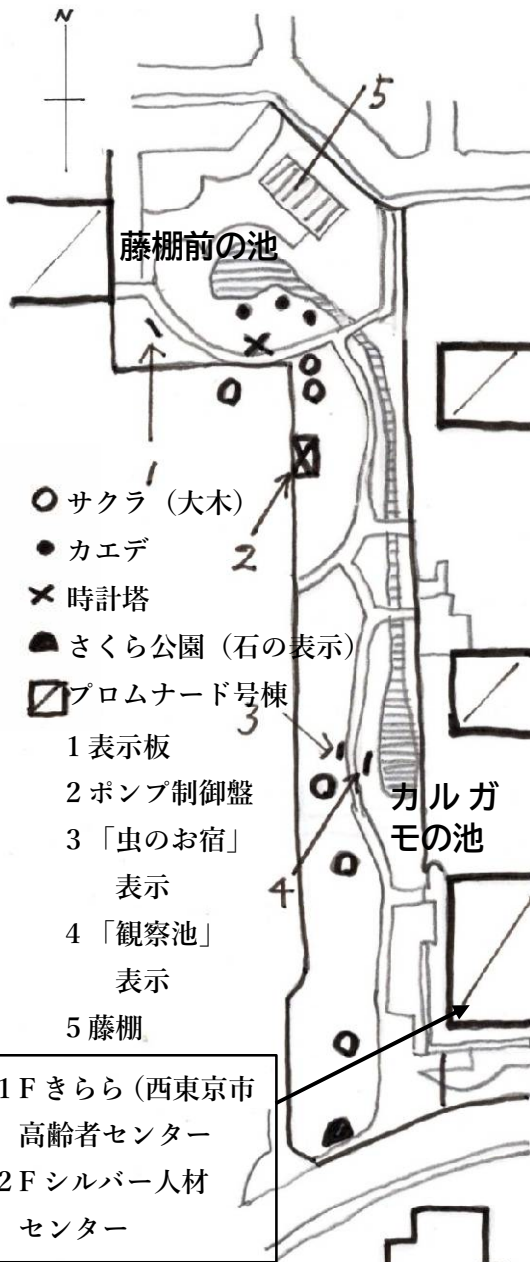
- 6月 4日（水）6月度定例会（芝久保公民館） 会報132号発行
- 6月 5日（木）ワルナスビ抜取り大作戦（いこいの森公園）
- 6月 7日（土）第1回芝久保公民館まつり実行委員会
- 6月11日（水）向台植物公園作業、ダブル会（雨天予報で中止）
- 6月15日（日）第4回アースデイ西東京実行委員会（フレスポひばりが丘）
- 6月18日（水）オーズガーデン拝見会（小田部邸）
- 7月 2日（水）7月度定例会（芝久保公民館）
- 7月 5日（土）第2回芝久保公民館まつり実行委員会
- 7月 7日（月）R6したのや縄文の里 秋まつり打合せ（田無庁舎）
- 7月 9日（水）向台植物公園作業（猛暑予報・中止） ダブル会（田無公民館）
- 7月12日（土）第5回アースデイ西東京実行委員会（フレスポひばりが丘）
- 7月26日（土）東大農場観蓮会に参加
- 8月 6日（水）8月度定例会（芝久保公民館）
- 8月13日（水）向台植物公園作業 後ダブル会（田無公民館）

○主な活動予定

- 9月27日（土）秋の親子自然観察会（谷戸公民館、いこいの森公園）
- 10月 5日（日）したのや縄文の里 秋まつり（下野谷遺跡公園）
- 10月22日（水）みどりの散策路めぐり（市と協働）
- 10月25日（土）～26日（日）芝久保公民館まつり
- 11月 2日（日）（公民館市民企画事業）アースデイ西東京講演会（田無公民館）

「富士町（まち）さくら公園といろいろな生物たち」

渡部 國夫



私が犬の散歩に時々訪れるところは、近くの「さくら公園」である。この公園は平成 14 年（2002 年）、保谷と田無が合併して西東京市ができた次の年に、市の公園として造られた。以前のこの周辺は公団住宅で、この場所は道路、さくら並木があったという。はこべら保育園前の北側の敷地は広場で、お祭りや運動会ができたところだったそうだ。

現在の UR（都市整備公団）の前の公団住宅からの建て替えの際にこの公園ができたという事だ。

その時の公団住宅では、生活用水は井戸水を使っていたという。UR になる時にこの井戸は活用され、現在では防災用の井戸水として使われている。2 の場所には「ポンプ制御盤」が置かれ、井戸を汲むための電気は、屋上のソーラーパネルで賄っていて、汲んだ水は「藤棚前の池」にまず流れ、細い流れがカルガモの時々いる池に流れていく。

この池には渡りをしないカルガモのほか、武蔵関公園からは時々カワセミも訪れ、シラサギもたまに来るとい「人工の生態系」ができています。以前はザリガニが多くいたが、外来種という事ですべて撤去され、小魚と、水生の昆虫・春のヒキガエルのオタマジャクシがいるという状況になった。

初夏のハンゲショウは池の前に茂り、池の周りには東久留米の落合川上流に生えるセキショウ・クレソンなどの植物も細々と生育している。

また 3・4 の場所に「虫のお宿」・「観察池」の表示があり、この公園を巡って気軽に「都市の中の自然」を感じられることが何よりもうれしい。この西東京市の「富士町さくら公園」を作るにあたって当時の「公団住宅の自治会」のこれからの市民のより

良い公園を作る努力と市の努力が、見事に実ったのではないかと推察する。以前はサクラの季節には満開の花が見事だったがだいぶ古木化し、太い枝を何本も T 字型の丸太で支えたり、注意書きが多かったりしていた。現在は危険な太いサクラは撤去され、新しい苗木が移植されたりして安全な良い環境になっている。まさに UR の中心の公園である。

読谷村から

天気の良い日はよく近くの浜辺に行きます。渡具知浜は読谷村の中でもよく知られている浜辺です。

碧い空、青い海そして一寸ベージュかかった砂浜、普段はあまり人は見られません。夫婦で青い海を眺めながら弁当を食べることが多いのです。贅沢な時間です。働いておられる方々に大変申し訳ない気持ちです。しかしそうした中ですぐ押し寄せてくる思いがあります。

そうです。この浜こそ昭和20年4月1日、米軍が上陸して、その後の凄惨な戦いが始まった場所なのです。事前の砲撃はいわゆる鉄の暴風といわれ、地上の物はすべて破壊されたとも言われています。ここから米軍は南北に侵攻をはじめ、県民の4人に1人が犠牲となった沖縄戦が展開されたのです。

ここ読谷村のみならず沖縄は今なお戦争の傷跡は消えておりません。沖縄全体でほぼ毎日のように不発弾が発見されているそうです。戦没者の遺骨の収集も行われております。戦後はまだまだ終わってはいないのです。過大な基地負担も変わっておりませんし、それに伴う事件も頻発しております。さらに昨今は何やらきな臭い情勢も見られます。

そうした中沖縄の人々は懸命に頑張っています。本土の多くの方々は「大変ですね。ご苦労よくわかります。どうぞ頑張ってください。よろしく願います。」と言われることが多いようです。「沖縄は日本のはずれだし、どこかに基地がなければ成り立たないのだから沖縄さんお願いしますよ」という考えのようです。あまりにも他人事ではありませんか。何かをしていただくことはともかく、せめて沖縄の過去・現在をよく知っていただきたいと思います。

そして苦労されておられる沖縄の人々も自分たちと変わらない日本の同胞だと思っていただきたいのです。

来たる8月15日は終戦80周年にあたります。是非沖縄に思いを寄せてください。

沖縄の平和は日本の平和です。そして世界の平和を求めなければなりません。

皆さんよろしくお願いいたします。



左写真は2025年6月中村が撮影した渡具知浜です。右写真は2025年5月18日付琉球新報小中学生新聞から転載の同じ渡具知浜での米軍上陸風景です。(画像は沖縄県公文館所蔵)

北海道の原生花園の花

田巻 威彦

その昔、会社の永年勤続のお祝いで、1週間の休暇と祝金を頂いたので、その記念に妻と2人で夏ごろ、北海道観光へ田無から自分の車で行って来ました。特に良かったのが、北海道東部には十数ヵ所の原生花園があり、見学したのはその一部の花畑でした。見たこともない種類でどこも満開で、名前も表示してあり、観光で特に時間を使った場所が原生花園でした。帰宅後、写真を切り抜いて、一筆箋をつくり、北海道旅行の記念にしました。



センダイハギ



チシマフウロ



礼文ウスユキソウ



利尻ヒナゲシ



千島アザミ



コウリンタンポポ



ツルコロモ



オオダイコンソウ



礼文シオガマ

キツネノカミソリ (ヒガンバナ科)

春先に出る細い線系の葉の形をカミソリに見立てて名付けられた。葉は夏に一度枯れ、7～8月頃伸びてくる50～60cmの花茎に濃い朱色の花を咲かせる。

実物を見るまでは、小型のニッコウキスゲが原野いっぱいに咲くイメージを抱いていたが、実際は林の下などに静かに咲いている感じを受けた。

(文 緒方 信子)



(菅北 正子 画)

自称 日本一小さな植物公園

向台植物公園の季節の花シリーズ-26

ヤブミョウガ (ツククサ科)



ヤブカンゾウ (ユリ科)



ヤブミョウガ (ツククサ科)

暑さのせいか向台植物公園でもすっかり数を減らしたが、真っ白なこの花が薄暗い林の中に咲いていると僅かな風が静かに吹いているような気がする。

丸くて白い実が薄い緑を帯び、徐々に青く熟して行く。

ヤブカンゾウ (ユリ科)

オレンジ色のこの花が緑の群の中に八重に咲き競うのを見るとハッとするような夏らしい感じを受ける。一重のスッキリと咲くノカンゾウはもう殆ど見かけられなくなってしまった。

○お知らせ

- 1 定例会 毎月の第一水曜日 9:30～ (通常 芝久保公民館)
- 2 向台植物公園作業・その後ダブル会 毎月第二水曜日 9:00～
- 3 自然観察会 毎月1回企画

—会員を募集しています—

問い合わせ先：大矢 隆治

電話：080-6816-1038

年会費 1500 円

〒188-0004 西東京市西原町 4-5-37-6-110

郵便振込み：口座番号 00190-6-662630

加入者名：西東京 自然を見つめる会

編集幹事 (大矢 隆治 緒方 信子 山口 建太郎 渡部 國夫)